

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)三愛会総合病院	階数	地上7F
建設地	埼玉県三郷市	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、用途地域未指定	平均居住人員	745 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年9月 予定	評価の実施日	2021年2月16日
敷地面積	10,786 m ²	作成者	大森 奈津子
建築面積	2,938 m ²	確認日	2021年2月17日
延床面積	17,135 m ²	確認者	大石 茂



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.7

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.8

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.9

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項	
総合	メンテナンス性・清掃性が高く維持管理しやすい仕様とし、省資源での改修対応ができるよう、将来計画も見込んだ形状・仕様としている。また外装材・環境負荷の低減コストバランスがとれた計画とする。
その他	
Q1 室内環境	騒音発生室と隣接する居室に、十分な騒音対策を行う。温湿度制御は各室対応した性能とし、多湿室については結露対策を行う。外気取り入れ口と局所排気・通気は分離し、全館禁煙とすることで室内環境の向上に努める。
Q2 サービス性能	内装材・設備は清掃性・耐傷性・耐久性の高いものを採用する。運用変更を考慮し、事務系の諸室はOAフロアとする。給水・給湯システムを用途ごとにゾーニングし、管理・点検がしやすいようにする。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内緑化率25%を満たし、駐車スペース下は緑化ブロックとすることで輻射熱を低減する。地域の風合いに合い、透水性の高い樹種とすることで地域性・防犯に寄与する。設備機器は、敷地外から見えないように目隠し
LR1 エネルギー	窓面積・断熱性能を適切量とすることで屋内熱負荷を低減する。高効率な空調機器を採用する。
LR2 資源・マテリアル	改修が予想される部分は、改修不要な躯体形状・取外しが容易な仕上とし、資材使用量の削減を考慮する。節水型の衛生設備を採用する。ODP=0の発泡剤を使用し、地球環境に配慮する。
LR3 敷地外環境	振動・騒音・悪臭等の対策は、基準を満たす仕様とする。敷地内雨水の流出抑制・隣地外の雨水が流入するようにより、近隣を含めた集中豪雨対策に寄与する。敷地内車両動線は通抜け形状とし、渋滞を抑制する。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)三愛会総合病院

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.7
Q1 室内環境							0.40		-	3.4
1 音環境						3.3	0.15	3.1	1.00	3.2
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音						3.8	0.40	3.3	0.40	
1 開口部遮音性能		外部サッシに遮音性能T-2を採用する。				5.0	0.40	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能						3.0	0.60	2.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音						3.0	0.20	3.0	0.20	
2 温熱環境						3.0	0.35	3.4	1.00	3.0
2.1 室温制御						3.0	0.50	3.8	0.50	
1 室温						3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能		窓サイズを小さくし、Low-e遮熱ガラスを採用する。				3.0	0.25	5.0	0.43	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御						3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境						3.0	0.25	3.5	1.00	3.0
3.1 昼光利用						3.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光率						3.0	0.60	3.0	0.60	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 昼光利用設備						3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策						3.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光制御						3.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度						3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御		各ベッドに照明を設置し、コンソールに個別調光スイッチを設ける。				3.0	0.25	5.0	0.25	
4 空気質環境						4.5	0.25	4.3	1.00	4.5
4.1 発生源対策						5.0	0.50	5.0	0.63	
1 化学汚染物質		床・壁・天井・天井裏建材は全てF☆☆☆☆を採用する。				5.0	1.00	5.0	1.00	
4.2 換気						3.5	0.30	3.3	0.38	
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能						3.0	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		局所排気・通気と外気取り入れ口の距離を確保。				4.0	0.50	4.0	0.33	
4.3 運用管理						5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視						3.0	-	-	-	
2 喫煙の制御		建物内は全面禁煙とする。				5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.8
1 機能性						4.2	0.40	4.8	1.00	4.3
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性		面積は個室は18.㎡/床以上、4床室9㎡/床以上を確保している				3.0	-	5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応						3.0	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画						3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						5.0	0.30	4.5	0.40	
1 広さ感・景観		病室の天井高は2600mmとする。				3.0	-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース						3.0	-	-	-	
3 内装計画		木材や間接照明を用いた内装計画をインテリアパースを作成し計				5.0	1.00	5.0	0.50	
1.3 維持管理						5.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		清掃性の良い素材・形状、防錆塗装を内外装に行う計画。				5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		各衛生設備についてメンテナンスルート・寸法を適切に計画。				5.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.2	0.30	-	-	3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.1	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		高湿系統にはガルバリウムダクトを採用。				4.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						4.2	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		重要な系統は、発電機回路とする。				5.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		節水型器具の採用、給水・給湯システムを用途ごとにゾーニング。				4.0	0.20	-	-	
3 電気設備		非常用発電設備・無停電電源装置を設け、受電装置は二重化して				5.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		耐震クラスはAクラスとして計画。				4.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.7	0.30	3.5	1.00	3.7
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	4.0	0.50	
1	階高のゆとり	共用部は階高4500mm、病棟階(住宅宿泊部)は階高3800mmとしてい	5.0	0.60	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率は共用部は0.099、病棟階(住宅宿泊部)は0.101としてい	5.0	0.40	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	機器の周囲にメンテナンススペースを確保。	4.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	将来対応として厨房除外設備等のスペースを確保。	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.9
1 生物環境の保全と創出		敷地内緑化率を28%を確保。	3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		景観になじむ小さい窓形状・色彩とし、地域の樹木に調和する植栽	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	透過性の高い植栽・フェンス、夜間照明を設置・待合スペースの設	3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	駐車場下の緑化ブロック敷設、機械設備の大半を高所に設置。	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.1
1 建物外皮の熱負荷抑制		開口面積を小さくし、Low-E遮熱ガラスを採用する。	4.8	0.20	-	-	4.8
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.88	2.6	0.50	-	-	2.6
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水型の衛生設備を採用、自動水栓を採用。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.3	0.60	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		乾式工法で堅シャフトを集約し内装レイアウト変更の自由度を高め	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0の発泡剤を使用する。	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		パッシブ性能を高くすることで、運用段階でのLCCO2を削減する。	3.4	0.33	-	-	3.4
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	循環バスルートの新設。自転車置場の設置。通り抜け可能な動線。	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	内照式外壁サインとし、直接光のまぶしさを軽減する。	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	